

所外研修⑤「特別支援教育」

去る6月11日(木)に前期教育研究員5名は、特別支援教育の概要及び発達障害のある児童・生徒の理解と支援のあり方についての理解を深め、今後の研究活動及び保育実践・授業実践に役立てることを目的として、沖縄県立総合教育センターの長期研修員講座「特別支援教育Ⅱ」を所外研修として受講しました。

通常の学校に在籍する発達障害と呼ばれるLD、ADHD、高機能自閉症等の理解とアセスメント、適切な支援の在り方についてと特別支援教育に係る保護者への教育相談の在り方についての講義と演習から、多くのことを学ぶことができました。

【講座の概要】

講義①「発達障害のある子どもの理解と支援Ⅱ」(9:10～10:40)

講師：特別支援教育班 主任指導主事 新垣ゆかり

- 特別支援教育とは
- 発達障害とは
- アセスメント(実態把握)の大切さ
- 保護者への対応
- 学級経営
 - ・全ての子どもにとって安心な学級経営を意識する。
 - ・規律規範を育てる ・愛着の形成

『出口からみる高等学校における特別支援教育』

- 県立高等学校における現状

講義②「特別支援教育に係る相談」(10:50～11:50)

講師：特別支援教育班 研究主事 稲田政博

- 教育相談の意義と心構え
- 保護者との信頼関係構築のために
- 保護者対応三原則



写真1 特別支援教育棟にて



写真2 研修中

教育研究員の感想 (研修日誌から)

幼稚園でも発達障害を抱える子が毎年在籍するようになってきているので、特別支援教育について、私たち教師も理解を深めなければなりません。発達障害を抱える子の幼児期についてはこれまでの研修等で学んできた部分もありますが、高校での現状や課題について知る機会がなかったので、新たな気づきや学びがありました。進学や就職という自立に向けた節目である時期だからこその課題もあることがわかりました。そこでもやはり大切になってくるのは、幼児期に保護者や教師と、どんな愛着関係信頼関係を築くか、どんな手立てをしていくのかがとても重要になるということを知り、幼児期の大切さをひしひしと感じました。教育相談についてのお話からは、私も保護者への対応の難しさを感じていたため、保護者が抱えてきた悩みや苦しみを受け止め、肯定的に話をしていくことで信頼関係を築いていくということを心がけて、今後は対応していこうと思いました。

(金城さくら)

特別支援教育の重要性があらためて感じられる研修でした。また、自分自身が研修を通してこのような知識や情報を得られることにとても感謝し、良かったと感じています。

教師は、発達障害児をもつ保護者の不安な心に寄り添う気持ちが大切だと実感しました。児童の後ろには保護者がいること。そして保護者が学校に相談に来るからには、自分ではどうしても解決方法が見つけれない状況であることを認識する必要があると感じました。その認識が保護者に寄り添う姿勢をつくることにつながるのではないかと考えています。

多くのことを学びましたが、発達障害のある児童・生徒の苦しさを理解し、最後まで話を聞くこと、そして寄り添い見守ることを心がけていきたいと感じました。保護者に対しても同じ対応が求められていると感じています。
(大城厚)

今日の講義から学んだことは、子どもも保護者も担任も悩んでおり、共通している願いは、「社会への適応」です。そのためには、一人で悩まずに相談をすること、そして周りの人の理解と支え、協力体制の確立が重要だと思います。担任として大切なポイントは、①愛着形成、信頼関係づくり、ルールの徹底、②課題の分析と手立ての工夫、③学びの保証、等の支援のあり方です。個別の対応で、その思いや背景を踏まえた上で、子どもの成長のために力を合わせて丁寧に適切な支援をしていかなければいけません。

カウンセリングマインドを身につけ、「傾聴」「共感」「受容」の姿勢で受け止める教育相談を通して、保護者・子どもたちと信頼関係を築いていきたいと思っています。
(長門照乃)

中学校や高校の特別支援教育の現状や特別支援教育に係る相談について話を聞きながら、昨年までの自分の対応について振り返ることができました。「気になる子」の行動や反応に接したとき、一瞬は「どうしてかな?」「なぜかな?」と頭をよぎりますが、心身に余裕が無かったため、子どもの行動・反応の間を読むことができず、その行動や反応を叱っていました。話を聞きながら昨年関わっていた子に対して、後悔の気持ちで一杯になってしまいました。これから、「気になる子」に対応することが増えてくると思います。アセスメントをしっかり行い、リフレーミングの視点で肯定的に子どもを見ることやスライド型の指導視点や後悔の気持ちを忘れずに、子どもたちへしっかり対応できる教師になりたいと思いました。

また、これまで特別支援に係る相談について、保護者への対応についてうまく話が進まない経験があります。その理由をしっかり把握できないままだったので、今日の講話で保護者の様々な内面を知ることができました。多くの事例も紹介していたので、これからの保護者の相談にしっかり対応できるようにしたいと思っています。
(具志堅智美)

発達障害があろうがなかろうが、その子の行動には理由があって、そこを理解しないと支援ができないということがよく分かりました。今日の講義は、発達障害や特別支援教育に関することでしたが、全ての生徒において、生徒理解や生徒への対応を考えるよい機会となりました。特にCCQやCCSについては、授業においてのみならず、生徒指導の場や行事等、様々な場面において意識していくべきことだと思います。明瞭に・具体的に・短くを意識して、検証授業に取り組んでいこうと思います。

後半の講義では、最初に問いかけ方の違いについて、これからの生徒指導等で活用していければと思いました。なんで～できないの?と原因を探るのも大切ですが、肯定的に、どうしたら～できるの?と投げかけることで前向きに行動できると思います。また、中学校の現場では、教育相談があり、傾聴(じっくりときく)・共感(共に感じる)・受容(肯定的に認める)という3つの心構えで生徒と接し、共感スキルで理解を示していければと思います。
(古屋誠一)